

<p>マクロ経済 産業動向</p>	<p>(1) 【1日 Daily Star 紙】 IFC は、Partnership for Cleaner Textile (PaCT) プロジェクトの第2フェーズの開始に伴い、バングラデシュ縫製業輸出協会 (Bangladesh Garment Manufactures and Exports Association : BGMEA) と署名を交わした。同プロジェクトは、テキスタイル工場や縫製工場における節電や水の節約に向けた先進的技術の適用を促すことが目的。IFC は今後4年間で250工場を対象にするとしている。</p> <p>(2) 【3日 Daily Star 紙】 2017年9月の海外送金受取額は、前年同月比19.2%減の8億5,373万ドルとなり、7年ぶりの低水準に留まった。この主な背景は、原油価格の低迷を背景とした中東諸国の景気後退の他、Hundi などインフォーマルな手段による送金の増加にあると考えられる。</p> <p>(3) 【5日 Daily Star 紙】 インターネット利用者の数が、2017年7月に7,000万人を突破した。2017年7月のインターネット利用者は7,020万人であった他、8月には7,190万人に増加した。インターネット利用者の内、携帯電話からアクセスしているのは、全体の93.18%である。</p> <p>(4) 【10日 Daily Star 紙】 国際的なオンライン・ペイメント企業である PayPal 社が、10月19日よりバングラデシュで事業を開始する。同社のサービスは国営の Sonali 銀行など9つの銀行で利用することが可能。Palak 国務大臣 (情報通信政策) は、「同社のサービスを利用すれば、外国からの送金が僅か40分で受け取れる」と強調した。</p> <p>(5) 【17日及び18日 Daily Star 紙、18日 Financial Express 紙】 バングラデシュ政府統計局は、「Preliminary Household Income and Expenditure Survey Report 2016」を発表。この中で、貧困ライン以下の人口割合は24.3%で、前回調査 (2010年) の31.5%より低下した。また最貧困率も17.9%から12.9%に下落した。更に、農村世帯では世帯月収が13,353タカであるのに対し、14,156タカを支出しており、農村世帯では、月平均の支出額が収入を上回っていることが明らかになった。一方、所得格差を表わすジニ係数は、0.483と前回の0.458より増加。格差が拡大している実態が明らかになった。</p> <p>(6) 【22日 Daily Star 紙】 2017年第3四半期にバングラデシュは50隻の廃棄船を購入し、これは同期間における購買廃棄船数で世界最多だった。2位はインド (44隻)、3位はトルコ (42隻) だった。同期間に世界で227隻の廃棄船が購入され、この内124隻は南アジアで購入された。</p>
-----------------------	--

	<p>(7) 【23日 Daily Star 紙】 2010年から2016年における一人あたりの米消費量は、人々の所得増加と食の多様化により減少していることが明らかになった。Preliminary Household Income and Expenditure Survey Report 2016によれば、一日当たりの平均米消費量は2010年は416gだったものが、2016年は367gとなっている。一方、同期間に魚の消費量は26%、鶏肉は54%増加した他、卵の消費量はおよそ倍となっている。</p> <p>(8) 【24日 Daily Star 紙】 乾季米 (Boro 米) の収穫量は、昨年度より5%減の1,800万トンに留まった。これは2009/10年度以来の低い水準。この結果、2016/17年度における米の総収穫量は、前年度比2%減の3,380万トンとなった。政府関係者は、「今年の雨期米 (Aman 米) の作付け状況は良好であり、昨年度以上の収量を確保できるのではないか」との見通しを示した。</p>
<p>財政 税制</p>	<p>(1) 【20日 Daily Star 紙】 2017/18年度の第1四半期 (2017年7月～9月) における開発予算の執行額は1,675億タカを記録し、前年同時期の1,078億タカより増加した。これは、外国援助の実行額が777億タカと前年度の倍となったことが主な要因。今年度の開発予算の総額は1兆6,408億タカであり、第1四半期で10.21%を消化した形。</p>
<p>金融・物価・ 為替</p>	<p>(1) 【1日 Daily Star 紙】 今年の上半期 (2017年1月～6月)、銀行セクターでは不良債権により営業利益の51%が吹き飛んだ。実際、銀行セクターの営業利益は前年同月比で11%増加したにもかかわらず、最終損益は33%も下落した。同期間で銀行セクターは、不良債権により525億タカの引当金の計上を余儀なくされた (前年同期は340億タカ)。</p> <p>(2) 【6日 Daily Star 紙】 2017年8月の民間セクター向け債権の伸び率は17.84%に達し、58か月ぶりの高い数値を記録した。前回は2012年11月に17.4%の伸び率を記録していた。この背景は、多くの企業による産業資材や工作機械の輸入が盛んであり、この決裁向けの融資需要が伸びを後押しした格好。</p> <p>(3) 【8日 Daily Star 紙】 バングラデシュ銀行 (中央銀行) は、今年度当初3か月間 (2017年7月～9月) で、今年度のドル売り介入額の目標を超えた。中央銀行は2017年7月1日から10月5日までの間に、既に1億9,900万ドルのドル売り介入を行った。中央銀行関係者は「ドル売り介入を行わなければ、為替レートは1ドル=85タカにまで下落していただろう」と述べた。</p> <p>(4) 【11日 Daily Star 紙】</p>

	<p>2016/17 年度の産業向け融資残高は 3 兆 67 億タカで、前年度より 13.51%ほどしか伸びなかった。この伸び率は 5 年ぶりに低い水準。業界関係者は、「インフラの未整備及び電力不足が新規投資に影響を与えた他、政治の安定を受け企業が既存設備の稼働率を高めることに注力したことも、融資残高の伸びに影響をした」と述べた。</p>
投資	<p>(1) 【9日 Daily Star 紙】 現地 ICT 企業である Aamra Holdings Group は、12 月に携帯電話の組立工場を新規に稼働させることを明らかにした。同社は毎年 300 万台の携帯電話を製造し、来年半ばから輸出にも乗り出す考えを強調。年間で 45 億タカの売上を目指すとしている。</p> <p>(2) 【25日 Daily Star 紙】 2016/17 年度のバングラデシュに対する外国直接投資額は、前年度比 22.54%増の 24.5 億ドルに達し、過去最高を記録した。分野別では、テレコム産業が 5 億 9,400 万ドルを筆頭に、縫製テキスタイル産業(3 億 6,000 万ドル)、電力産業 (3 億 3,342 万ドル) と続く。一方、国別では、シンガポール (7 億 100 万ドル)、イギリス (3 億 4,100 万ドル)、アメリカ (2 億 800 万ドル) の順。</p> <p>(3) 【26日 Daily Star 紙】 Akiji Jute Mills 社は、マレーシアの木製加工製造企業 (Robin Resources 社及び Robiba Flooring 社) を、1 億ドルで買収することを発表。バングラデシュ企業が外国に投資をするのは、これで 7 社目となる。同社関係者は「これはバングラデシュの企業にとって画期的なことだ」と述べた。</p>
貿易	<p>(1) 【1日 Daily Star 紙】 米価の高騰を受け、人々の小麦粉の需要が高まっていることを背景に、小麦の輸入量が増加している。2017 年度第一四半期 (2017 年 7 月～9 月) における小麦粉の輸入量は、前年同期比 28%増の 94 万トンに達した。</p> <p>(2) 【3日 Daily Star 紙】 インド及びバングラデシュ両国の取り組みにもかかわらず、インド向け輸出額が伸び悩んでいる。2016/17 年度の対インド輸出額は 6 億 7,240 万ドルで、前年度の 6 億 8,962 万トンから減少した。貿易関係者は、「インドの非関税障壁の他、バングラデシュの輸出品目が多様でないことが、主な要因」との見方を示した。</p> <p>(3) 【9日 Daily Star 紙】 縫製品の輸出下落により 2017 年 9 月の輸出総額は大きく落ち込んだ。2017 年 9 月の輸出額 (単月) は、前年同月比 10.18%減の 20.3 億ドルに留まった。縫製品の輸出額も 16.2 億ドルで、前年同月比で 11.48%下落した。業界関係者はインド休暇による影響を強調。</p>

	<p>(4) 【12日 Daily Star 紙】</p> <p>インド政府による 8 億 9,400 万ドルという巨大な振興策により、インドの縫製業は、バングラデシュを急速に追い上げている。昨年度のインドの縫製品輸出額は 170 億ドルで前年度比 15%増加した一方、バングラデシュは 281 億ドルで前年度より僅か 0.2%しか伸びなかった。WTO によれば、世界の縫製品市場で、インドは 4%を占めている一方、バングラデシュは 6.4%のシェアを占めている。</p>
<p>雇用問題 海外出稼ぎ 社会保障</p>	<p>(1) 【8日 Financial Express】</p> <p>ダッカ商工会議所 (Dhaka Chambers of Commerce and Industry : DCCI) 主催の「Managerial Capacity Building」と題されセミナーが開催され、この中で Islam 海外雇用大臣は、バングラデシュでは 20 万人の外国人管理職が毎年 60 億ドルの報酬を得ていると指摘し、バングラデシュ人管理職を育成する必要性を強調した。</p> <p>(2) 【28日 Financial Express 紙】</p> <p>今年 9 か月間 (2017 年 1 月～9 月) の海外出稼ぎ労働者数は 736,461 名に達し、前年同時期の 546,275 名より大幅に増加した。国別に見るとサウジアラビアが 412,397 名で最も多く、これにオマーン (66,073 名)、カタール (64,396 名)、マレーシア (49,307 名) が続く。このような海外出稼ぎ労働者の増加にかかわらず、海外送金流入額は下落している。今年 9 か月間では 8 億 5,373 万ドルに留まり、前年同時期より 106 万ドルほど減少した。</p>
<p>社会</p>	<p>(1) 【11日 Daily Star 紙】</p> <p>ダッカ郊外の産業地帯 Savar に住む Rupali Akter は、5 人の家族を養っている。最近の物価上昇により生活必需品を買うのに、ツケで買わなければならない。彼女は縫製工場で月に 1 万タカを稼ぐが、この稼ぎでは全ての生活費用を賄うことは出来ない。「以前は 50kg の米を購入していたが、最近の米価の上昇により現在は 10～20kg しか購入できない。この為、家族が必要とするものを全て買うことが出来ず、生き延びていくのは大変だ」と述べた。これは縫製産業に 400 万人いる女性労働者の一つの例である。</p> <p>(2) 【10日 Daily Star 紙】</p> <p>9 日、12,000 名のロヒンギャ難民が新たにミャンマーからバングラデシュに逃れてきた。国連によれば、8 月 25 日以降バングラデシュに入ってきたロヒンギャ難民は 52 万人に上る。この内、4 万人は最近 10 日間に逃れてきた。</p> <p>(3) 【13日 Daily Star 紙】</p> <p>デジガオン消防署の他、ダッカ市内の 6 か所の消防署は、建物の耐震補強をほどこした。また、バングラデシュ全国で少なくとも 300 以上の工場や、ダッカ市内の国際組織が入居するビルにおいても、耐震補</p>

	<p>強が進んでいる。一方、住宅に目を向けると、人々の理解不足や建設資材のコスト高により、その状況は目を覆うばかりだ。耐震補強では、壁の強度を上げ、地震時に建物が崩壊することを防ぐ等の対策が必要となるが、これらは建設費用を 40%押し上げる。バングラデシュ政府と国連開発計画（UNDP）の共同プロジェクトでは、ダッカをマグニチュード 7.5 の地震が襲った場合、72,000 棟の建物が崩壊し、88,000 人の死者が出るとしている。</p>
--	---

(了)